



## 紙つぶて

山で雷に遭つのは大変恐ろしく、なかでも富士山の雷は特別です。山頂付近で雷雲が近づいたら建物の中に逃げるのが一番です。ヘルメットをかぶっていても髪の毛が逆立つ雷雲の恐ろしさは、一九六四年レジャー建設の現場監督だった元大成建設の伊藤庄助氏の話にあります。屋内でも、配線を伝って入り込んだ雷で測定中の装置が火を噴いたことがあります。無人の時に商用電源を使えないのはこの雷の問題のためです。夏の二方は山頂班が、予報を見て雷が起きる前に、独立した発電機に切り替えてしのいでいます。

東京学芸大・鴨川仁助教のグループは、この点に注目して雷の観測を進めています。夏の雷雲は上空、四キロ以上の高いところで発生するため、すぐそばでの観測は簡

## 富士山の雷

単ではありませんでした。しかし富士山頂は雷雲で覆われることがあるため観測に最適です。今夏も鴨川先生と十人の学生が雷を求めて山に登り、雷雲から発生する高エネルギー放射線の観測や、雲海より高い測候所を利用して超高層の放電現象であるスプライトの撮影に二回も成功しました。これまでも日本大気電気学会で、学生発表賞を含む大きい成果を得ています。

安全な避雷対策の最新技術の研究も、東海大・佐々木一哉准教授と元東京大学・技術専門員の安本勝氏の共同で進められていて、来年は富士山頂での実証試験が予定されています。測候所が日本の



の雷研究の中心になるのも夢ではありません。(土器屋 由紀子「富士山測候所を活用する会理事」)